

課程等		ディプロマ・ポリシー
工芸科学部		<p>ディプロマ・ポリシーとは、学部・課程の教育研究上の目的を達成するために学習指導した成果である学位授与の判断のための基本的な考え方や、期待する能力を示したものです。</p> <p>工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工系高度専門技術者(TECH LEADER)を養成すること」を達成するために、本学卒業生が共通に有すべき能力として、以下に掲げる「工織コンピテンシー」を定めています。また各課程において、それぞれの専門的立場からディプロマ・ポリシーを規定しています。</p> <p>これらの工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った専門的知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、TECH LEADERとなりうる人材と認め、「学士(工学)」「(応用生物学課程においては「学士(農学)」)の学位を授与します。卒業に必要な単位数や修業年数(卒業要件)は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められています。</p> <p>工織コンピテンシー(本学卒業生として有すべき能力)</p> <p>■ 専門力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの学習領域においての高度な専門知識・技術を有している。 ・ データ分析活用能力を有している。 ・ 思考力、判断力、ならびに、創造力を有している。 ・ 新しい技術を国内外から学び、改善し発展させる能力を有している。 ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。 ・ 技術者としての倫理性を有している。 <p>■ リーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。 ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。 ・ 専門の異なる多様な人々と、建設的な議論と相補的な協働を行い、成果へと導く能力を有している。 ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。 <p>■ 外国語運用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をし、表現する能力を有している。 ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。 <p>■ 個の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。 ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。 ・ 多様化する社会の中でも揺るがない個を有している。
応用生物学域	応用生物学課程	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、学部のディプロマ・ポリシーに加えて、本課程では、幅広い生命科学の基礎知識とバイオテクノロジーに対する知識・技術を有し、バイオテクノロジーを駆使して人類のベターライフに関わる技術開発が出来る能力を身につけることを目標とします。</p> <p>A. 生物の生体構成分子(タンパク質、核酸、脂質、糖)の構造と機能を理解している。</p> <p>B. 生命現象の基本(代謝、遺伝、発生、生理、行動)を理解している。</p> <p>C. バイオテクノロジー(遺伝子操作、細胞培養、酵素活性測定、顕微鏡等のナノテクノロジーなど)に関する知識と技術を修得している。</p> <p>D. 生命科学とバイオテクノロジーに関して、論理的な文章の記述、プレゼンテーション、討論が出来る。</p> <p>E. 社会の諸問題を、データ分析を活用しつつバイオテクノロジーによって解決することができる思考力・判断力・創造力を有し、バイオ産業に貢献できる能力を有している。</p>
物質・材料科学域	応用化学課程	<p>学部のディプロマ・ポリシーに加えて、</p> <p>A. 幅広い教養と高い倫理性を備え、物質・材料の化学と工学について高度な専門知識と応用力を身につけていること</p> <p>B. ナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、環境・エネルギーテクノロジーの技術革新を促進する物質・材料の専門知識と課題解決能力を備えていること</p> <p>C. 将来の地球環境、国際社会、地域産業に関する課題解決に貢献できる人材としての素養を有していること</p> <p>がすべて認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。そしてその認定は、科目群毎に設定された応用化学課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)を満たしていることと、卒業研究又は卒業プロジェクトの成果によって判定されます。</p>
設計工学域	電子システム工学課程	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、学部のディプロマ・ポリシーに加えて、本課程では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 自然科学や工学と社会との関わりを理解し技術者としての社会的役割を認識できる</p> <p>B. 専門分野に関する幅広い基礎学力を身につけている</p> <p>C. 専門知識を応用する基礎技術と経験を身につけている</p> <p>D. 課題解決のための論理的思考力およびコミュニケーション能力を身につけている</p> <p>これらは、授業科目区分ごとに設定された課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)を満たしていることと、卒業研究の成果によって判定されます。</p>
	情報工学課程	<p>本課程では、「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、学部のディプロマ・ポリシーに加えて、次のような能力を修得していることが認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>A. エンジニアリングデザイン能力:限られた人的、物的、時間的資源の制約の下で、社会の要求を解決するために、リーダーシップを持って他者と協働し未来志向の新しいシステムを創出できる。</p> <p>B. 専門知識と応用力:コンピュータ科学(CS)およびコンピュータ工学(GE)分野の専門知識をもち、それに基づいて持続可能な超スマート社会を実現するハードやソフトを創造し、分析、構築することができる。</p> <p>C. コミュニケーション能力:自らの確固たる文化的背景と専門知識を基盤として、国内外の異なる文化や習慣を持つ人々との共同作業ができる。</p> <p>D. 学習習慣と情報収集・分析力:技術の爆発的進歩、変化への対応のため、さらにそれらによる将来の社会変化に適応できるように、継続的な学習習慣を持ち、ICT(Information and Communication Technology)を活用した効率的な情報収集や情報分析を自律的に行うことができる。</p> <p>E. 技術者教養・倫理:日本および諸外国の文化理解や環境問題に対する深い洞察に基づいて、技術者の社会的責任を認識し、倫理的に行動できる。</p>

課程等		ディプロマ・ポリシー
設計工学域	機械工学課程	<p>本課程では、工学的な新価値を創造する高度専門技術者や研究者の育成を目的として、次のディプロマ・ポリシーを定めており、全ての事項を求められる水準で習得したと認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>A. 豊かな教養と地球的視点の習得と社会的責任の認識 B. 幅広い基礎学力と専門知識の習得 C. 国際的に通用する表現力と論理性の習得 D. 自律的判断と問題解決の能力の習得</p> <p>学位授与の可否は、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)を満たしているかどうかと、卒業研究の成果によって判定されます。</p>
デザイン科学域	デザイン・建築学課程	<p>デザイン・建築の制作・製作に関わる基本工学技術を踏まえ、アイデアをモノ・コトに展開する実現力(表現力)や経営的知識・工学的知識・技術といった基礎を身につけた上で、PBL教育の展開によってディレクション能力やコミュニケーション能力、マネジメント能力といった応用的能力に関する素養を身に付けていることが認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>具体的には、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. デザインや建築の制作・製作のための基本技術を有している。 B. 柔軟な感性と創造力及びビジネスマインドを有している。 C. 科学的な思考力と判断力を有している。 D. デザイン、マネジメント、エンジニアリングを横断した広い視野を有している。 E. 社会構造・生活環境・経済環境についての広範な知識を有している。</p>